

9 補強土工

9-1 木製補強土壁工

特徴

本工法は、補強盛土工法の壁面に木材を使用するものであるが、盛土は敷鋼材により安定させ、壁面材は敷鋼材の壁面部分の型枠として機能するもので、盛土の安定計算には影響しない。

素材丸太を使用することも可能であるが、施工時に径を揃える手間がかかり、完成後に壁面部の緑化が期待しにくいことから角材を使用する。

施工場所

通常の補強盛土工と同じ。

施工方法

斜タイ材で縦材（軽量溝型鋼）を所定の勾配及び間隔に設置し、同縦材間に角材をはめ込んで壁面材を設置する。これに通常の補強盛土と同様に敷鋼材を施工する。



全景

施工地：熊本県芦北郡芦北町

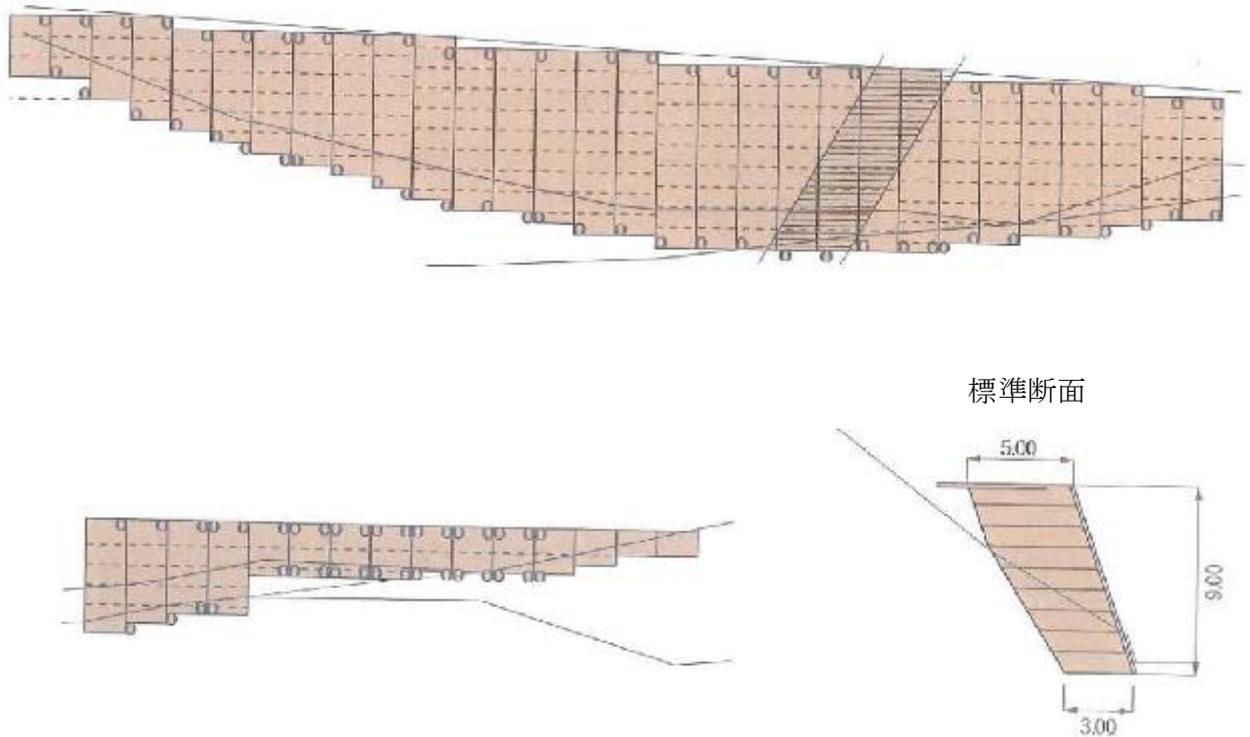
事業名：ふるさと林道緊急整備事業

施工主体：熊本県

標準図

(単位：m)

1号擁壁



材料・歩掛表

歩掛表

(100 m²当たり)

区分	名称	仕様	数量	単位	備考
壁面材組立	世話役		0.23	人	
	普通作業員		5.15	人	

歩掛表

(100 箇所当たり)

区分	名称	仕様	数量	単位	備考
斜タイ材設置	世話役		0.31	人	
	普通作業員		1.83	人	

敷網材布設 別途計上

中詰材敷き均し締め固め 別途計上

材料表

(1.000 m²当たり)

区 分	名 称	仕 様	数 量	単 位	備 考	
木	材	壁面材	66.2	m ³		
		間隙材				(杉正角)12cm×12cm×12cm
鋼	材	縦材	13.5	t		
		固定材				15cm×5cm×L
		斜タイ材				5cm×5cm×199cm
		取付金具				φ10 L=95cm
		アンカー筋				φ13 L=60cm
敷	鋼	材				
連	結	棒				
吸	出	防	止	材		
中	詰	め	材	現地発生材		

9-2 木製補強土壁工

特徴

構造・施工が簡単であり、面状補強で盛土材の適用範囲が広く、コーナー、曲線部にも施工可能である。

壁面に開口部を設けているので、緑化が可能である。

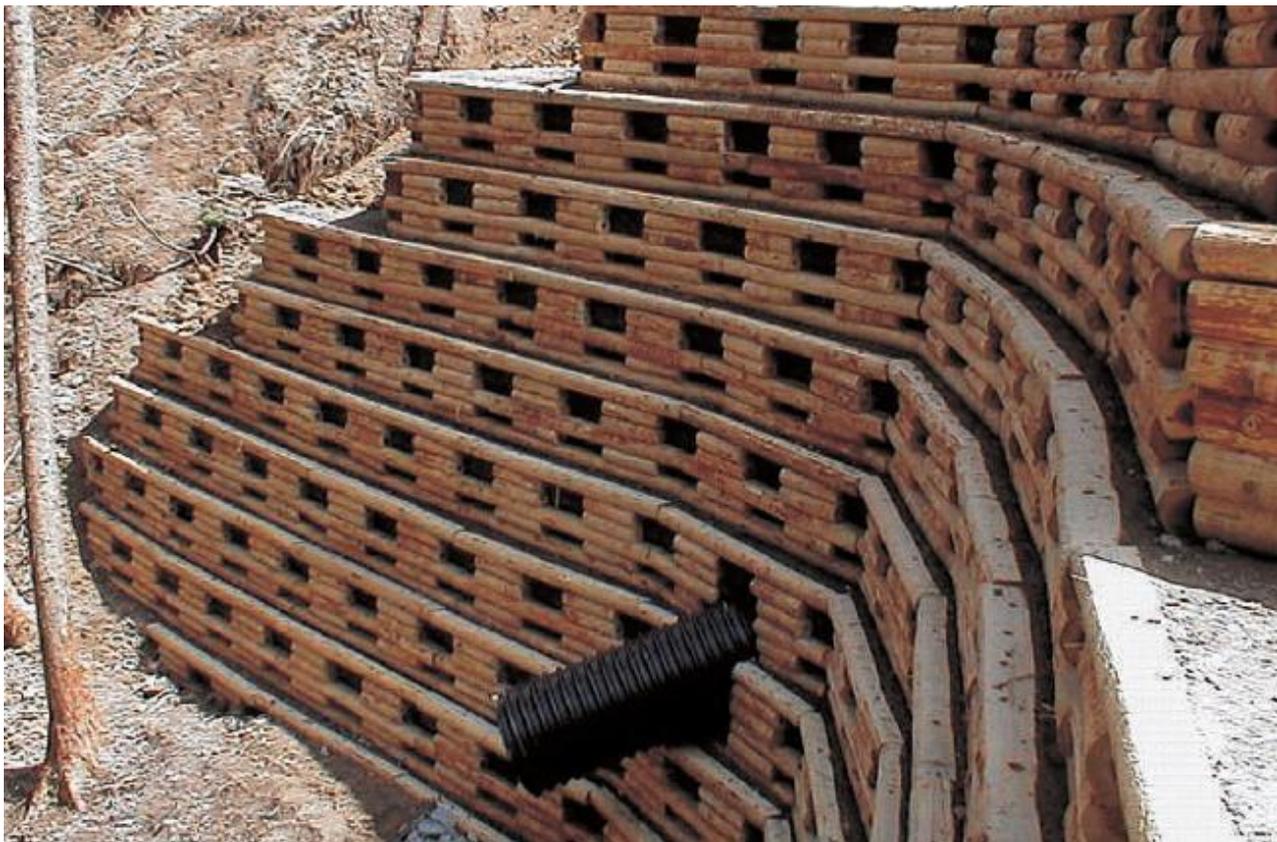
ジオグリッドの巻き込みにより、補強土壁は自立しているため、壁面材には、必ずしも耐久性を求められず、壁面材の取替えも可能である。

施工場所

通常の補強土壁と同じ。（道路、造成、水辺、土留柵など）

施工方法

所定の位置に設置した自立型壁面フレームに、間伐材等による壁面材を組立てる。後は、通常の補強土壁工と同様に施工する。



全景

施工地：愛媛県北宇和郡広見町

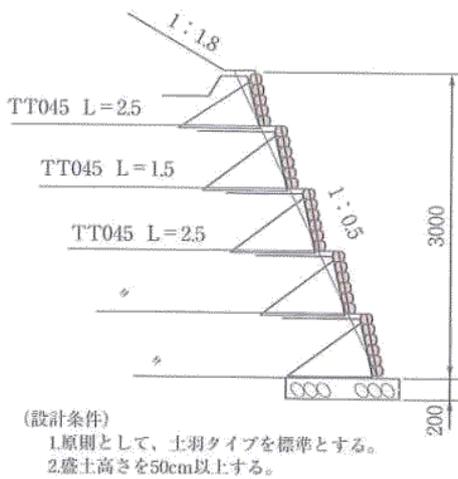
事業名：基幹（広）第1-1号林道開設事業

施工主体：愛媛県

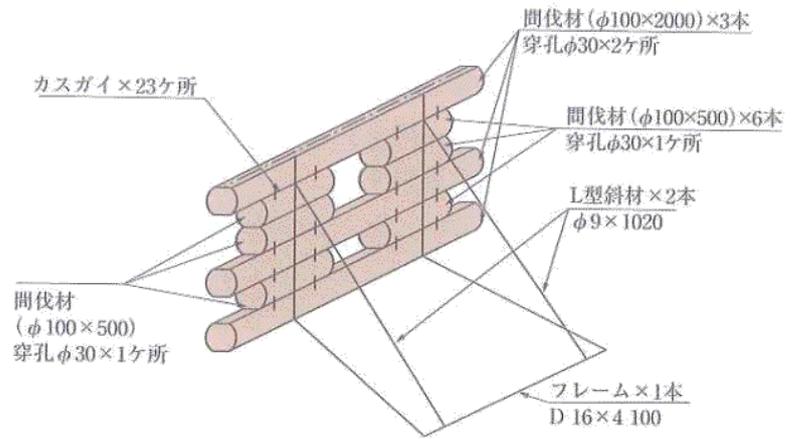
標準図

(単位：m)

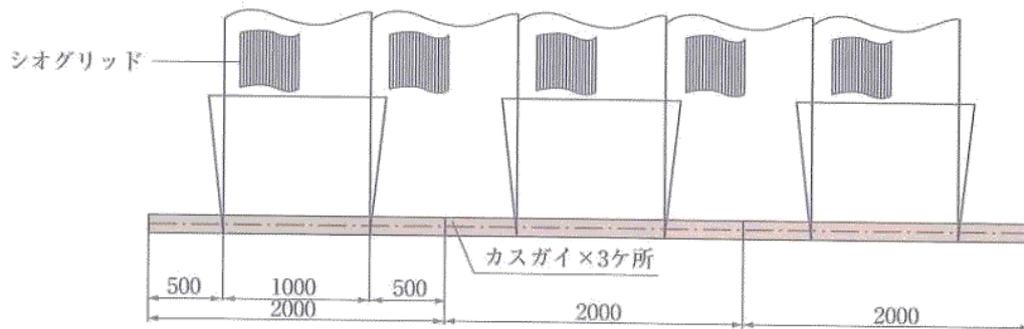
標準断面図



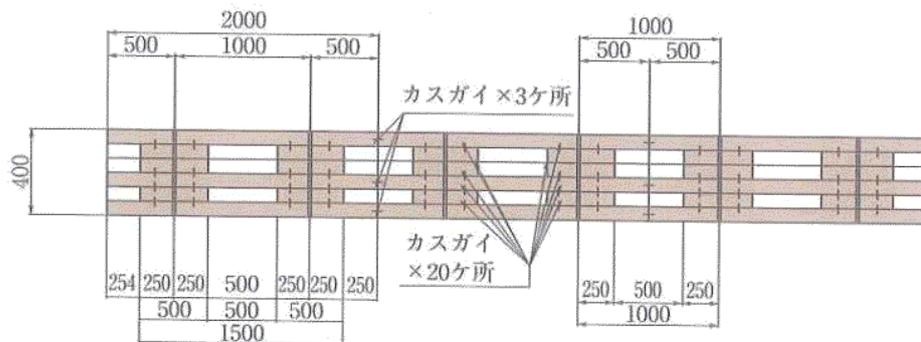
ユニット立体図



平面図



展開図



材料・歩掛表

(10m当たり)

名 称	形状・寸法	単位	数量	摘 要
緑化マット	太鼓落とし φ10cm×2.000m 斜用	本	75.00	
	太鼓落とし φ10cm×0.500m 斜用	本	150.00	
フ レ ー ム	D=16mm×4,100mm メッキなし 斜用	本	25.00	
L 型 斜 材	φ 9mm ターンバックル付 斜用	kg	50.00	
緑化マット	ヤシガラシート W=650mm	m	30.00	
補 強 材	TT045 SAMP W=1,000mm	m ²	187.00	

壁面組立

(100 m²当たり)

名 称	単位	数量	摘 要
一 般 世 話 役	人	1.00	
普 通 作 業 員	人	6.80	

補強材敷設工

(100m当たり)

名 称	単位	数量	摘 要
一 般 世 話 役	人	0.20	
普 通 作 業 員	人	1.00	